

川根本町 図書室だより

5月

2022年5月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内7コース
TEL: 0547-59-3106(文化会館)
TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間: 午前9時～午後5時
- ☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(15日)・祝日の翌日(6日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『ヒトの壁』

養老孟司 著 新潮社

職場の人間関係を丸くする

【エッセイ】 文



新型コロナウイルス禍と五輪、死の淵をのぞいた自身の心筋梗塞、愛猫の死。人生そのものが、不要不急ではないか。それでも生きる価値はどこにあるのか。2年間の体験から改めて問い直す、究極の人間論。

『千年の読書 人生を変える本との出会い』

三砂慶明 著 誠文堂新光社

なぜ人生には本が必要なのか

【実用】 山



千年前から、人が本を読む喜びは変わらない。人生の岐路にちょうど、ぴったりの本と出会えるのは、本当に偶然なのか。本に人生を何度も助けられてきた書店員が、「人生を変える一冊」に巡り合うヒントを伝える。

『小さい林業で稼ぐコツ2』

農山漁村文化協会 編

裏山は宝の山、広葉樹の価値発見

【林業】 文

裏山の「雑木」には知られざる値打ちがある。お宝広葉樹の探し方から、樹種ごとの売り方・活かし方、放置された人工林に手を入れるための技、林床を活かした山菜の自生地栽培の話まで。



『年寄り集まって住め 幸福長寿の新・方程式』

川口雅裕 著 幻冬舎メディアコンサルティング

老年期との新たな付き合い方

【エッセイ】 山

人生100年時代の“本当に幸せな健康長寿”の創り方とは? 高齢者へのインタビューやアンケート調査など、数多くの具体的事例から、理想のシニアライフを徹底検証。老年期との新たな付き合い方を提示する。



NEW
CD



Aimer
『星の消えた夜に』

文



上原ひろみ
ザ・ピアノ・クインテット
『シルヴァー・ライニング・スイート』

山

◎ 新着図書



新刊の詳しい情報は、
【川根本町図書ネット】で検索

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>●『タラント』 角田光代 著 中央公論新社</p> <p>周囲の人々が“意義ある仕事”に邁進する中、心に深傷を負い、無気力な中年になったみのり。不登校の甥の手で、心にふたをした義足の祖父の過去が緋かれるとき、みのりの心は...</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>●『奇跡』 林真理子 著 講談社</p> <p>男は世界的な写真家、女は梨園の妻。「不倫」という言葉を寄せつけないほど正しく高潔な二人。林真理子に託され綴られた、本来であれば、決して世に出ることがなかったはずの、愛の“奇跡の物語”。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>●『ななみの海』 朝比奈あすか 著 双葉社</p> <p>児童養護施設で暮らす高校生のななみは、医学部進学を目指している。懸命なアルバイト、最後の文化祭、初めての彼氏。高校生活を色濃く過ごす中、高3の夏にななみが選んだ道とは-</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>●『繁花上・下』 金宇澄 著 早川書房</p> <p>戦後、文革、高度経済成長。時代に翻弄され、変わりゆく上海で育った3人の少年、阿宝、滬生、小毛は、歴史の荒波のすき間に何を見たのか。上海語の会話を関西弁で翻訳する野心的な試みが結実した現代中国文学の精華。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>●『繭の季節が始まる』 福田和代 著 光文社</p> <p>新型ウイルスに対抗するため、外出を禁じる<繭>の仕組みができた世界。AI搭載のネコ型マシンと共に街をパトロールしていた警察官アキオは、無許可で外に出ている犬を発見。飼い主を訪ねると、部屋では人が死んでいて...</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>●『燕は戻ってこない』 桐野夏生 著 集英社</p> <p>29歳、女性、独身、地方出身のリキは、非正規雇用ゆえに貧困にあえぐ。子宮・自由・尊厳を赤の他人に差し出し、東京で「代理母」となった彼女に、失うものなどあるはずがなかったが...</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>●『春のこわいもの』 川上未映 著 新潮社</p> <p>ギャラ飲み志願の女、親友をひそかに裏切りつづけた作家、大切な手紙を失くした高校生、寝たきりの老女...。感染症が爆発的流行を起こす直前の、東京の男女6人の体験を描く。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>●『漆花ひとつ』 澤田瞳子 著 講談社</p> <p>これから先、世がどのように変化するのか、それは誰にもわからない。畜生と侮られる武士が公卿に成り代わる日が来るかもしれない。平安末期、滅びゆくものと生き続けるものを紡ぐ全5編を収録。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>●『ヤマネコとアザラシちょうさだん』 五十嵐美和子 作 PHP研究所</p>  <p>海のごみを間違えて食べてしまうのに困り海をきれいにするため調査をするアザラシ達の心温まるおはなし。</p>	<p>●『ナイチンゲールのうた』 ターニャ・ランドマン 作 ローラ・カーリン 絵 BL出版</p>  <p>むかし、地球はみずみずしく、色にあふれていた...。動物たちと色をめぐる、創世神話のような物語絵本。</p>



(山村開発センター所蔵)



『はじめてのおつかい』 筒井頼子 作 林明子 絵

私が子供の頃、大好きだった絵本 はじめてのおつかいを山村開発センターの図書室で見つけました。

わあーなつかしい！ おもわず手にとって読んでみました。

この本は5歳のみいちゃんという女の子がひとりで はじめておつかいに行くお話です。私が特に好きなシーンは、

「まあまあ、ちいさなおきゃくさん。きがつかないでごめんなさい」

お婆さんは、なんどもあやまりました。

みいちゃんは きゆうにほっとして、ぼろんとひとつ、がまんしていた なみだがおっこってしまいました。

この表現がとってもかわいくて大好きで、この場面はとても感動しました。いくつになっても心に残る絵本です。 図書室スタッフK